

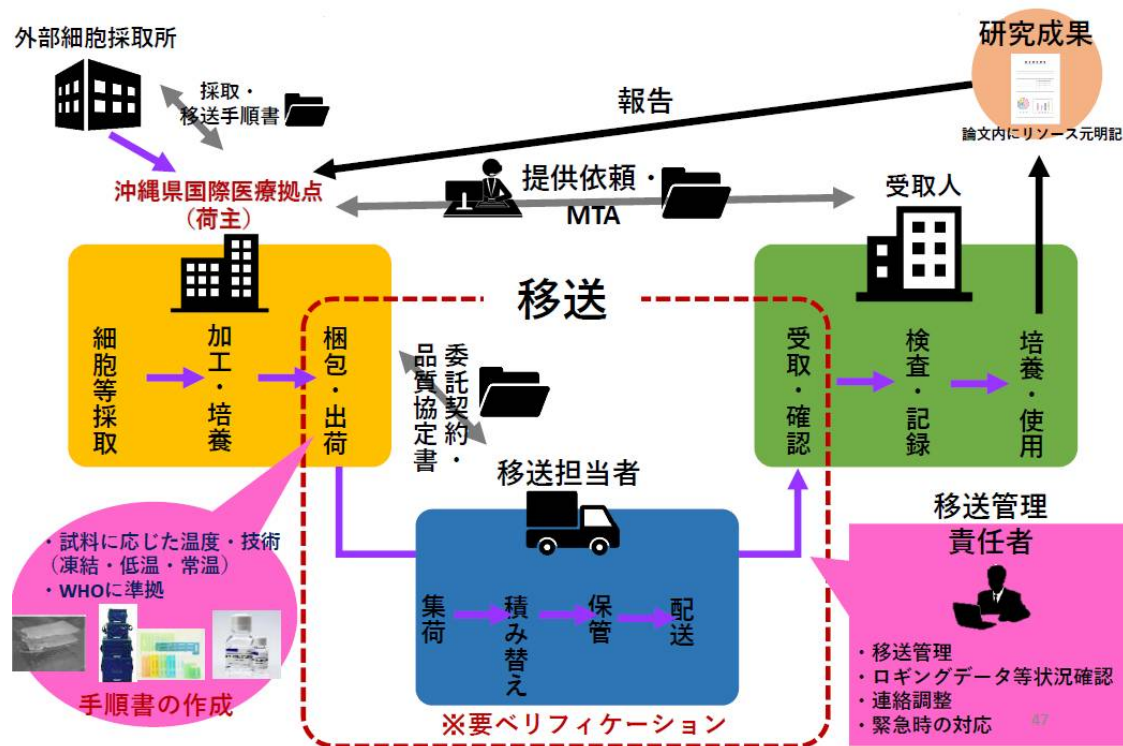
沖縄県国際医療拠点を中心としたメディカルロジスティクス構築
に向けた戦略策定（平成28～29年度事業）

実施協力団体：(一財)沖縄国際メディカルアイランド研究機構

【事業の目的】

再生医療及びがん治療の進歩に伴い細胞等を移送する物流「メディカルロジスティクス」が必要になりつつありますが、沖縄には東南アジア主要都市まで4時間という利便性に着目して沖縄県国際医療拠点構想があり、メディカルロジスティクスに関しても沖縄を医療の物流拠点にすることが期待されています。具体的には、琉球大学医学部及び附属病院が強みとする細胞などの医療試料を発送、収集することで、広く医療の発展に寄与することを目指しています。

そのため、本事業では、安全な医療試料の移送のための基準を明確にし、メディカルロジスティクスを構築するための戦略を策定します。



【29年度事業の概要と成果】

琉球大学医学部の学識経験者、関連企業などが参加する戦略策定委員会を沖縄国際メディカルアイランド研究機構に設置して、28年度においては、医療分野毎に、各医療試料の空輸の可能性について検討するとともに、WHOなどのガイドラインを調査し、梱包方法と容器、温度変化への対応を検討しましたが、29年度は、次の事業を行いました。

①細胞の移送に係る課題の検討

琉球大学医学部・附属病院が医療資源として強みを有している臍島細胞と脂肪幹細胞及びがん免疫細胞の3種類の細胞を対象に調査を行い、それぞれの試料を移送するにあたって保持すべき温度やその他の条件を明確にしました。

②バイオバンクの現状調査とメディカルロジスティクスの検討

世界最大手のバイオバンクである米国の ATCC (American Type Culture Center) の寄託・預託ネットワークにおける試料の移送の業務手順や我が国のバイオバンクにおける試料の移送方法の現状を調査しました。これにより、メディカルロジスティクスを構築するためには、医療関係者を支援する事業として、知的財産権に関して MTA (Material Transfer Agreement) を結ぶ業務、ISO に基づく作業マニュアルの整備、医療試料の梱包に関する WHO の包装基準が重要であることを明らかにしました。

③OKINAWA BIO-INFORMATION BANK 構想のためのメディカルロジスティクスの検討

沖縄で検討が進められている OKINAWA BIO-INFORMATION BANK 構想を調査し、この構想の一環として、医薬品輸送のネットワークや感染症研究のための試料の移送のニーズがあることが明らかとなりました。

④沖縄県国際医療拠点を中心とするメディカルロジスティクスの戦略策定

医療試料の梱包に関する WHO の包装基準、移送中の温度管理のための保冷技術を調査し、これらと上記の各検討結果をまとめ、沖縄県国際医療拠点を中心としたメディカルロジスティクス構築に向けた戦略を策定しました。

【今後の展開】

2年間の成果を踏まえ、受託機関である(一財)沖縄国際メディカルアイランド研究機構は、琉球大学医学部と連携しつつ、沖縄県や内閣府などの予算を活用して戦略の具体化の検討を進めるべく、関係官庁に働きかけていくこととしています。

【問い合わせ先】

調査開発全般： 一般財団法人 機械システム振興協会 Tel: 03-6848-5036

本調査開発の詳細： 一般財団法人 沖縄国際メディカルアイランド研究機構 Tel: 098-963-9124